

I 日本語・日本事情教育：
日本語研修コース30期（静岡）・日本語補講（静岡
・浜松）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-05-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 熊井, 浩子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00010070

I 日本語・日本事情教育

日本語研修コース30期（静岡）・日本語補講（静岡・浜松）

熊井 浩子

1. コースの概要

27年度後期（第30期）は、正規生として教員研修留学生1名、非正規生としてインドネシアからの交換留学生1名、計2名が日本語1を受講した。非常に熱心な学生で、全く問題なく修了要件を満たすことができ、修了証を授与した。

28年前期は、日本語研修コース受講者がいなかったため、予定授業数15コマのうち静岡キャンパスで4コマ、浜松キャンパスで6コマ、計10コマが日本語補講として日本語教育プログラムの各レベルを補う形で開講された。単位はないが、80%以上の出席とC以上の成績を取った学生には希望に応じて受講証が授与された。

2. 授業期間

日本語研修コース（第30期） 平成27年10月8日～平成28年2月10日 15週
日本語補講 平成28年4月8日～平成26年7月28日 15週

3. 平成27年度後期 日本語研修コース（第30期）

3. 1. 受講者

クラス	受講者	国	所属・在籍身分
日本語1	1	ベナン*	教育学研究科・研究生（教員研修留学生）
	2	インドネシア	インドネシア大学交換留学生

* 正規生

3. 2. 時間割

日本語1

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1・2時限 8:40～10:10	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語
3・4時限 10:20～11:50	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語
5・6時限 12:45～14:15	漢字	作文	聴解	日本の生活	会話

3. 3. 授業内容

日本語 I (入門)

目標：日本語の基礎的な構造・表記を学び、日常生活における基本的なコミュニケーション力を身に付ける。

基礎日本語 10コマ/週

目的：日本語の基本的な構造・表記を理解し、日常的なコミュニケーションの基礎を身につける。

内容：初級文型の総合的なコミュニケーション練習

使用教材：『みんなの日本語 本冊』初級 I・II (スリーエーネットワーク)

『みんなの日本語 翻訳・文法解説 英語版』初級 I・II (同上)

『日本語かな入門 英語版』(国際交流基金)

会 話 1コマ/週

目的：既習項目を使って、日常生活のさまざまな場面で、いろいろな活動・コミュニケーションができるようになる。その活動をとおして、異文化の考え方・習慣を学ぶ。

内容：基礎日本語の既習事項の運用練習。日本語ネイティブスピーカーとの会話。校外学習の計画作り。

使用教材：適宜

聴 解 1コマ/週

目的：日本語の音声から必要な情報を得られるようになる。

日常生活において基本的なコミュニケーションができるようになる。

内容：CD・テープ・ビデオなどを使った聞き取り練習及び発音練習。

使用教材：『聴解タスク 25』初級 I・II (スリーエーネットワーク)

『楽しく聞こう』(文化外国語専門学校) 等適宜

作 文 1コマ/週

目的：既習の語彙や文型を文章の中で適切に使えるようにする。さまざまなテーマで作文を書くことによって、語彙・表現を増やす。

内容：全体的な構成を意識しながら、日常的なトピックについて作文を書く・文集作成

使用教材：『やさしい作文』(スリーエーネットワーク)

漢 字 1コマ/週

目的：日常生活・勉学生活に必要な基本的漢字の読み書きを身につける。

日本語研修コース修了後も自分で学習を継続できるような漢字学習法を学ぶ。

内 容：初級前半の漢字の読み・書き、読解

使用教材：『みんなの日本語 漢字 英語版』Vol.1（スリーエーネットワーク）

『みんなの日本語 初級で読めるトピック25』（スリーエーネットワーク）

日本の生活 1コマ/週

目 的：主に新規来日の学生を対象とする。スムーズに日本の生活に適応するため、基礎的な日本文化・社会に対する理解を深める。

内 容：日本の文化・習慣など、日常生活で最低限必要なこと。見学などを随時行なう。

使用教材：適宜

4. 平成28年度前期 日本語補講（静岡）

4. 1. 時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1・2時限 8:40～10:10					
3・4時限 10:20～11:50		日本語2	日本語4		
5・6時限 12:45～14:15			日本語5	日本の生活 (原沢)	

4. 2. 受講者

日本語2 : 4名

日本語4 : 17名

日本語5 : 8名

日本の生活 : 6名

4. 3. 授業内容

日本語2 漢字 1コマ/週

目 的：日常生活に必要なレベル（N5、N4）の漢字を習得する。

内 容：日常生活に必要な基本漢字の読み・書き、使い方を学ぶ。

使用教材：『みんなの日本語 I 漢字 英語版』（スリーエーネットワーク）、『漢字たまご初級』（凡人社）、『にほんごチャレンジ N4・N5 かんじ』（アスク出版）など

日本語4 会話 1コマ/週

目 標：今や日本文化に欠かせないマンガ・アニメからは気持ちを伝える表現を、小説や随筆からは特有の文章表現を学び、日本語と日本文化の理解を深める。

内 容：アニメやマンガから気持ちを伝える表現を修得する。小説や随筆の文章を深く読む。

教 材：『マンガで学ぶ 日本語上級表現使い分100 N1～N3』（アルク）、
『中上級学習者向け日本語教材 日本文化を読む』（アルク）

日本語5① 漢字 1コマ/週

目 的：日本語能力試験N1レベルの聴解、文法の練習を行う。聴解に関しては、発音の矯正、及び日本語のリズムの習得等、発話レベルの練習も行う。文法の小テストを毎時行う。

使用教材：授業時にプリントを配布

日本の生活 1コマ/週

目 的：日本の生活にスムーズに適応するために、日本社会に関わる様々な情報を得る。また、日本文化の体験学習を通じて、日本文化に対する造詣を深める。

内 容：(1) 学習者の文化と比較しながら日本文化についての知識を深める。
(2) 体験学習の実施により、実践的に日本文化を体験する。

使用教材：授業時にプリントを配布

5. 平成28年度前期 日本語補講（浜松）

5. 1. 時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
3・4時限 10:20～11:50			日本語2		
5・6時限 12:45～14:15	日本語3				

5. 2. 受講者

日本語2：27名（うち研究者1名）

日本語3：8名

5. 3. 授業内容

日本語2 カタカナ、漢字 1コマ/週

目 標：日常生活に必要なレベル（N5、N4）の漢字を習得する。
習った知識を使って、簡単な文章を読めるようにする。

内 容：カタカナ・漢字の読み・書き。初級読解教材を読む。

使用教材：『語彙マップで覚える漢字と語彙 初級1400』J（リサーチ出版）

日本語3 漢字、語彙 1コマ/週

- 目 標：これまでに習得した日本語力を用いて、読める力を身につける。
内 容：日常生活に必要なレベル（N3）の語彙、漢字を習得する。
習った知識を使って、文章を読めるようにする。
教 材：『語彙マップで覚える漢字と語彙 中級1500』（Jリサーチ出版）

平成27年度日本語研修コース（第1期）

袴田 麻里

1. コースの趣旨と目標

14年度後期より開講してきた学部入学前予備教育プログラム（日韓理工系学部留学生コース）を、21年から研究生向けに変更し後期にのみ開講している。

本コースは、修士課程進学を前提に本学で研究生として在籍する留学生に対して、大学院受験に足る、また、修士生として勉学できる日本語能力（日本語能力試験2級以上）を身に付けさせることを目標としている。中級から上級レベルの語彙、文法、漢字能力の補強、発話能力、作文能力の育成を行った。

2. 授業期間

第7期：平成27年10月8日から平成28年2月10日

3. 受講生

プレイスメントテストの結果、中級後半の日本語力を持つと判定された研究生1名（中国）、交換留学生1名（韓国）、修士生2名（インドネシア1名、ベトナム1名）が受講することになった。3名は90%以上の出席率であったが、研究生の1名は研究室での活動の都合により81%であった。

4. 日程と時間割り

〈日程〉	10月5日（月）	ガイダンス
	10月6日（火）	プレイスメントテスト
	10月8日（木）	コース開始
	12月11日（金）	中間試験
	2月9日（火）	期末試験
	2月10日（水）	コース終了